背戸道を便りに

ー 行き渡る暮らしとコミュニティ ー

Keywords
真鶴　港町　背戸道 コミニュティ
バッファー　土間

DZ17251 廣野 涼哉

1. 背景と研究目的

「津々浦々」という言葉の通り、日本は全国に港があり、江戸時代から港町が人の交流、物流の発展を担ってきた。そこでの人々は生活は活気に溢れ、産業を中心にコミュニティを築いてきた。しかし、現在では大半の港町が人口減少とともに廃れ、以前の交流も見る影がないという地域も多い。雄大な自然と日本古来の原風景、観光資源や港の魅力があるにも関わらず過疎化で衰退化していく港町の再生につながる計画が必要である。

1.1 進みゆく衰退

平成26年5月に日本創成会議が発表したレポートによると、2040年には人口1万人未満（推計)になるとされている「消滅可能性都市」に真鶴町が取り上げられている。深刻な人口減少の中でも若い世代の減少、とりわけ若年女性人口の減少と言うものが背景にある。真鶴町の若年女性人口変化率は、国の-36.21%、そして神奈川県の32.02%を大幅に上回 る-70.41%を示している。

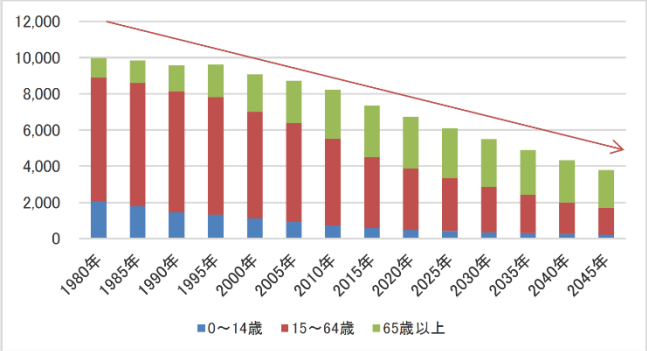


図１　真鶴町の人口推移

出典:総務省　国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口より作成

1.2 研究及び計画の位置付け

日本の港町は海岸線沿いにきめ細かく立地してきた。江戸時代中期にはそれらの港がネットワークされる。港町がどのような場所に立地し、地形上の制約を克服して発展したか、成立の基本条件がある。

case1 自然の波止が海に突き出し、湾の奥に湊が形成される港町 ・美保関（島根県美保関蝶）・真鶴（神奈川県真鶴町）・宿根木（新潟県佐渡島）・熊沢浜（宮城県）etc...

case2 前面からの高波を阻止する前島を持つ港町 ・尾道（広島県）・牛窓（岡山県）・御手洗（広島県）・室津（兵庫県）etc...

図2　牛窓と前島

case3 入海の内側に集落を築き形成された港町 ・庵治（香川県高松市）

図3　かつて入海だった庵治

case4 岬に集約化された港町・津屋崎（福岡県福津市）

出典:岡本哲志著「地形で読み解く都市デザイン」

これらの港町のうち、特徴的な湊の構成が見られ、かつ、伊豆半島や箱根が近くにありながら熱海の様に大規模な開発による観光地化がなされていない真鶴に着目し、計画案を提案することで、港町の再生を提案する。

2. 対象地域の分析と可能性

2.1 神奈川県足柄下郡真鶴町の概要

真鶴は東京から電車で2時間ほどの距離にあり、人口は7000人程の小さな港町である。古くから上質の石材とされる本小松石の産地として有名で、漁業と石材業が盛んな街である。港周辺地域や東市街地は昔ながらの街並みを残しつつも、津島神社から西のエリアでは等高線に沿い、弧を描く様に新設された道路用地が特徴的である.
新設道路と小道を階段で結ぶことで山川の土地と港の関係が築かれ、生活空間が斜面地にも及ぶため街の至るところに石壁や階段がある。

2.2 背戸道

真鶴町は街中に路地が多く存在する。車が通れないほど細い路地は、地元の人から「背戸道(せとみち)」と呼ばれている。狭く曲がりくねった小道が裏の勝手口を結ぶように町中をネットワークしていることから名付けられていた。背戸道は地域住民にも馴染み深い事がわかる。

2.3 美の基準

まちづくり条例、美の基準とは真鶴町が制定した真鶴町を美しくすることによって、生き生きと生活するためのルールである。この「美」を個人的な主観としないために「場所」「材料」「格付け」「装飾と芸術」「尺度」「コミュニティ」「調和」「眺め」の8つの基準が設けられている。この景観を守る制度もあり、真鶴は昔ながらの街並みを残している。

図4　美の基準

出典:全国町村会「神奈川県真鶴町/真鶴町と美の基準～「変えない」が魅力となる共通言語」

3. 計画の対象敷地

3.1 対象敷地概要

図5　対象敷地

対象敷地は神奈川県足柄下郡真鶴町とする。真鶴駅から真鶴港に向かう大通りに面し、周辺の施設に情報センター真鶴、図書館、コミュニテイ施設や真鶴小学校等がある街の主要地域である。起伏に富んだ敷地であり、隣接する土地に比べて最大で約8m程高い箇所もある。用途地域は第一種住居地域、建蔽率60%容積率200%である

図6　現在の敷地の様子

3.2 敷地分析

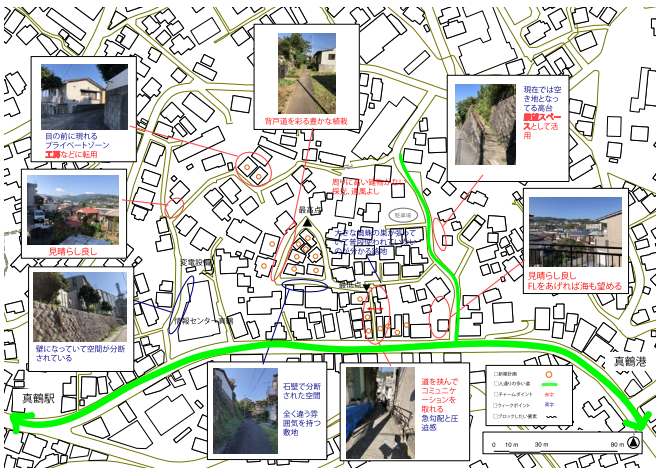


図7　敷地調査プロット

3.3対象敷地における問題

背戸道はかつて真鶴住民のコミュニケーションの場であったが現在は見る影もない。雑草が生茂り、大きな蜘蛛の巣がはっている路地も多く見受けられる。真鶴の特徴

とも言える背戸道が、今や過去のようなコミュニティ、まちの活力は見られない。時代に伴い新しく道路や建物が建てられることで独特の風景構造はより複雑となった。街の至る所にある石壁もまた、真鶴を特徴づけるものではあるが、その分生活空間の中に公園やカフェなどパブリックな空間が乏しいため住民同士のコミュニティが生まれにくい状況となっている。

4. 設計概要

4.1コンセプト

現状、敷地には住戸や商店が密集しており、各住戸は斜面地で形成される敷地に建っているため、間口や生活空間が多様である。背戸道からのアプローチと住戸の床レベルに高低差があるため、プライベート空間が突如道に面して現れたりする。この高低差を生かし新たな生活空間と人々が背戸道を利用しコミュニティを築く建築の提案を行う。

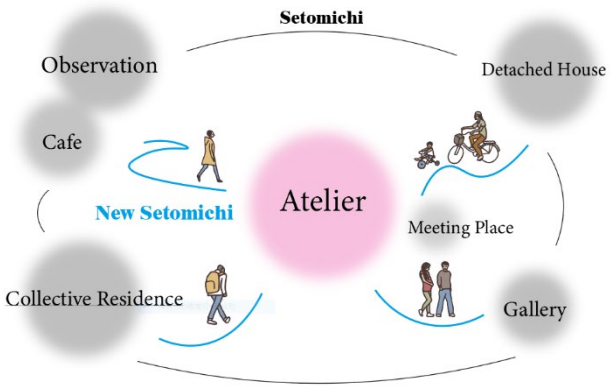


図8　背戸道と各機能への接続

4.2 計画概要とプログラム

敷地面積：4,180㎡、延床面積：3,842㎡

集合住宅　1410㎡
アトリエ　690㎡
戸建住宅　950㎡
カフェ　250㎡
展望台　240㎡

4.3 配置計画

真鶴駅から近く、周辺にコミュニティ施設や小学校がある中心地を敷地に選定する。大通りに面した二つの敷地が**集住・アトリエエリア**と**戸建エリア**であり、その間にある袋小路の背戸道によって出来た敷地が**展望・カフェエリア**である。この普段使われていない、袋小路の背戸道への誘導を図るため、海や町が見渡せる展望台、人々の憩いの場になるカフェを計画し先の二つの敷地からの人々の動線を作る。大通りからのアクセスをより増やすために圧迫感のあった住戸や商店の並びから一転、視界の開けた**集住・アトリエエリア**と**戸建エリア**とした。

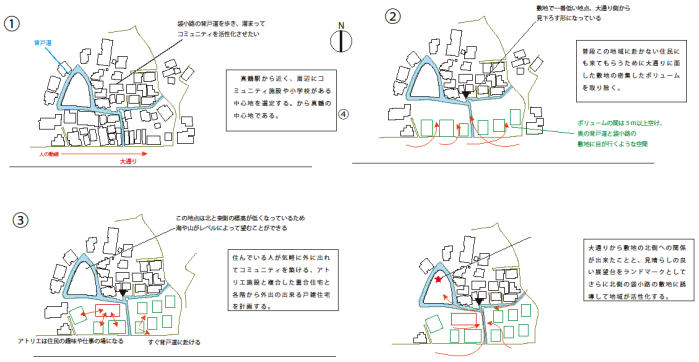


図9 配置計画のダイアグラム

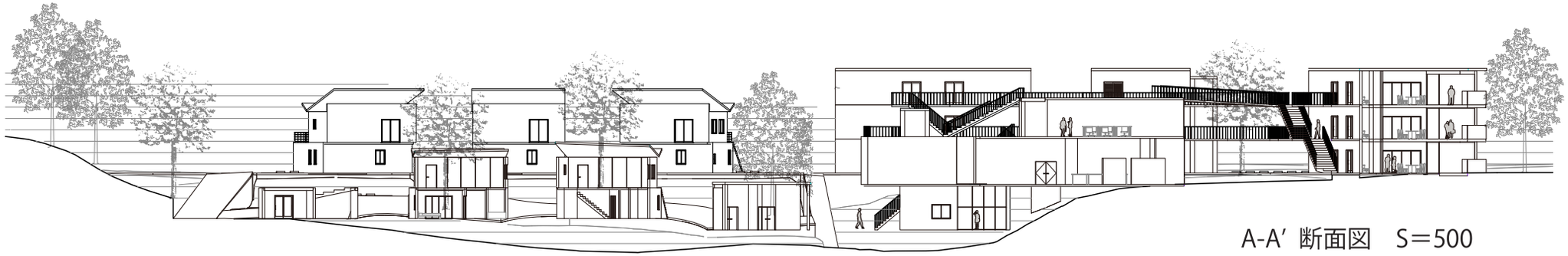
参考文献

1) 岡本哲志「地形で読み解く都市デザイン」 2019年

2) 真鶴町「真鶴町まちづくり条例美の基準」 1992年

3) 総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、 総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.html 最終閲覧日 2020/11/07

4) 地域再生計画 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/2020keibi01/plan/k074.pdf 最終閲覧日 2020/11/07



A-A′ 断面図　S＝500

2F PLAN　S=1/600

外観パース